

はにい

こんな学校がいい！

平成25年2月27日



「わくわくする学校がいいですね。」
「また行きたくなるような？」
「ディズニーランドみたいな学校！」
「あ、その営業部長がね、『すべてのお客様にハピネスを提供する鍵』って言う話をされていて、大事なのは、Safety、Courtesy、Show、Efficiencyだと話してたわ。」
「学校なら、Showは授業ですね。」
「Safetyは安全？」「いのち！」
「なら、もうひとつSでService。心づくしでどう？」
「Safety、Service、Show。これは、学校に使えますよ！」

県内に33ある市町村教育委員会の課長さんたちが集まって、ワークショップを行なっています。最初の問いは「学校がこんなだったらいいな。」

まず、理想の学校を確認しよう、という対話です。

「まず、先生と子どもがほっとする人間関係が生み出される学校がいいですね。」

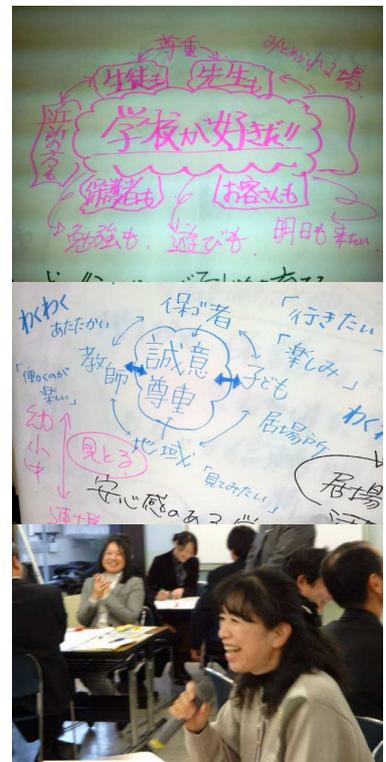
「子どもと子どももです。」

「あ、先生同士もですよ。ほっとする職員室！」

「そして、授業が楽しくて生徒が待ちこがれるような・・・」

席替えしながら対話したあと、「では、そんな学校のために、教育委員会ができることってなんでしょう。」という問いに切り替えました。

急に現実に戻されたようでしたが、話は盛り上がり、夢に向かって具体的なアイデアが出されていきました。



—— 3ラウンド対話してみて、どうでしたか？

「先生たちに、自信をもって授業して欲しいな、と思うんですけど、そのためには、いい授業のイメージがないとできないということが課題になりまして、指導主事ができることはそこだろう、という話になりました。」

「こちらでも、指導主事たちで何ができて話したんですが、『指導主事が朝から一日中、学校にいる。』もうこれが、今日出たアイデアのナンバーワンだと思いました。指導主事がゆっくり授業を見て、放課後じっくり話ができたらいいなと思いました。」

夢が描かれて、アイデアが出ました。